

Passion for Innovation.
Compassion for Patients.™



令和3年度「テレワーク推進企業等厚生労働大臣表彰（輝くテレワーク賞）」

第一三共株式会社_事例発表

～第一三共グループにおける経営戦略としての働き方改革～

2021年11月30日

第一三共株式会社

人事部労政グループ長

小澤 政博

事業内容

医薬品の研究開発、製造、販売等

従業員数

約 **16,000** 人 (第一三共グループ _グローバル)

約 **9,000** 人 (第一三共グループ _国内)

約 **5,700** 人 (第一三共株式会社_単体)

売上高

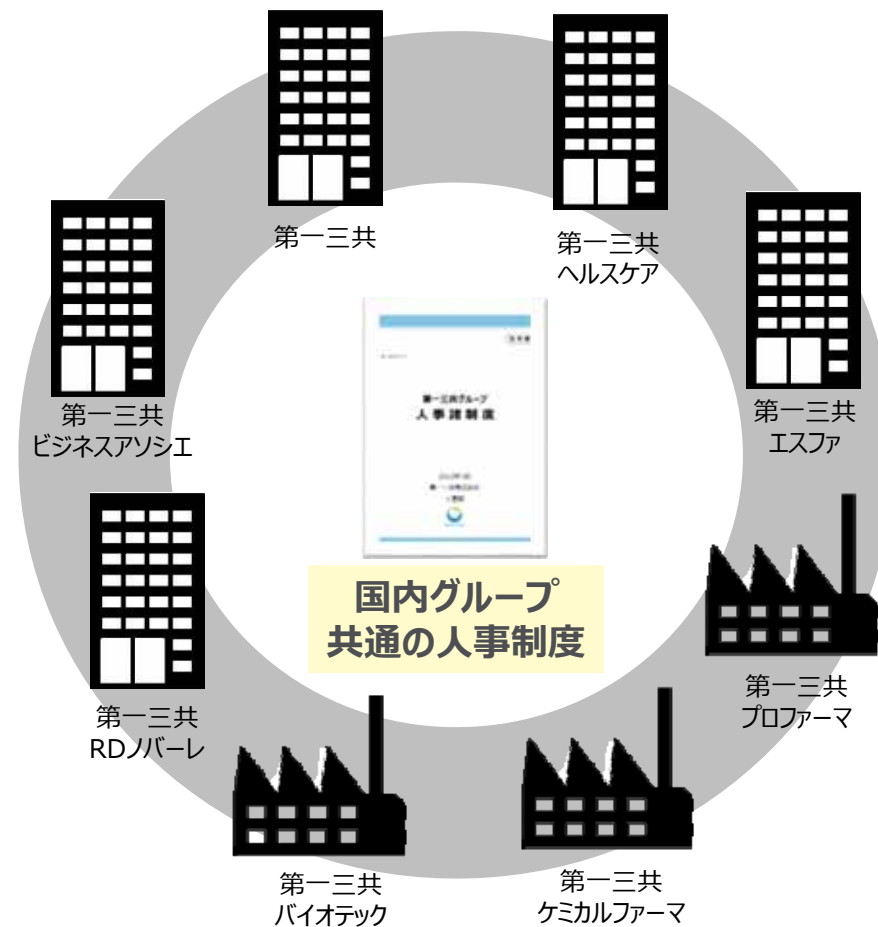
9,625 億円 (2020年度)

第一三共グループ_国内

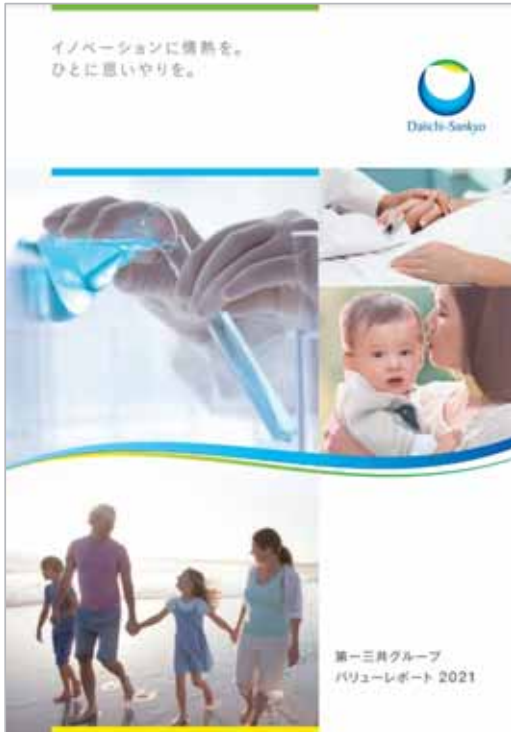


多様な医療ニーズに応える医薬品を提供するために国内グループ一丸となって経営推進

<p>新しい成分の 医薬品による治療</p> 	<p>高品質な薬を より安価に</p> 	<p>病気の発症を 予防</p> 	<p>セルフ メディケーション</p> 
イノベティブ 医薬品	ジェネリック 医薬品	ワクチン	一般用 医薬品



第一三共グループの存在意義とマテリアリティ（重要課題）



第一三共グループ
バリューレポート2021

**当社の
パーパス** **世界中の人々の健康で
豊かな生活に貢献する**

事業に関わるマテリアリティ
(革新的な医薬品の創出 (ほか))

事業基盤に関わるマテリアリティ



**競争力と優位性を生み出す
多様な人材の
活躍推進と育成**

コンプライアンス
経営の推進

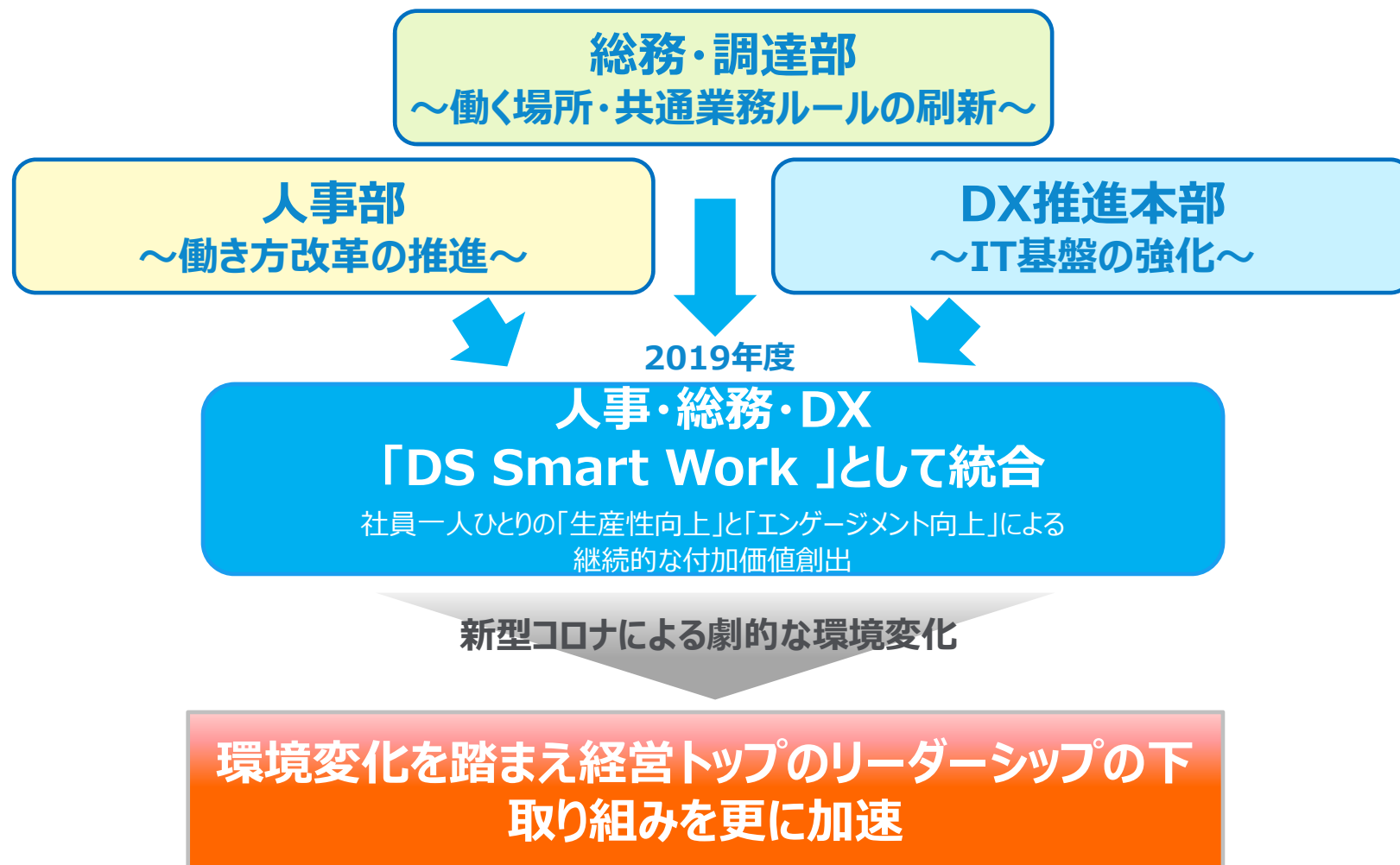
企業理念の
実現に向けた
コーポレートガバナンス

環境経営の推進

第一三共グループでは、「人」を最重要な「資産」と位置づけ、人材マネジメント理念に基づき、社員一人ひとりの多様性を尊重することが持続的な成長に不可欠と考えています。多様な人材の活躍推進と育成により、社員と会社の相互成長を目指すことで、競争力と優位性の創出に繋げていきます。

その取組みのひとつが、『**DS Smart Work**』

「DS Smart Work」の背景と取組みの加速



「DS Smart Work」の社内展開

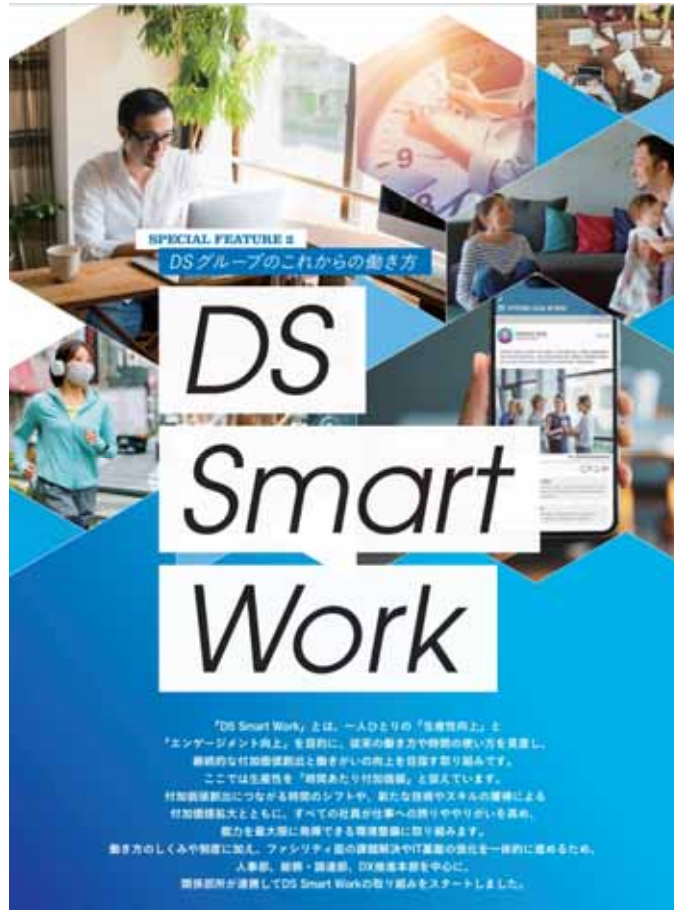


経営メッセージ>>

(CEOによるメッセージ発信)



(社内Portalでの特設サイト開設)

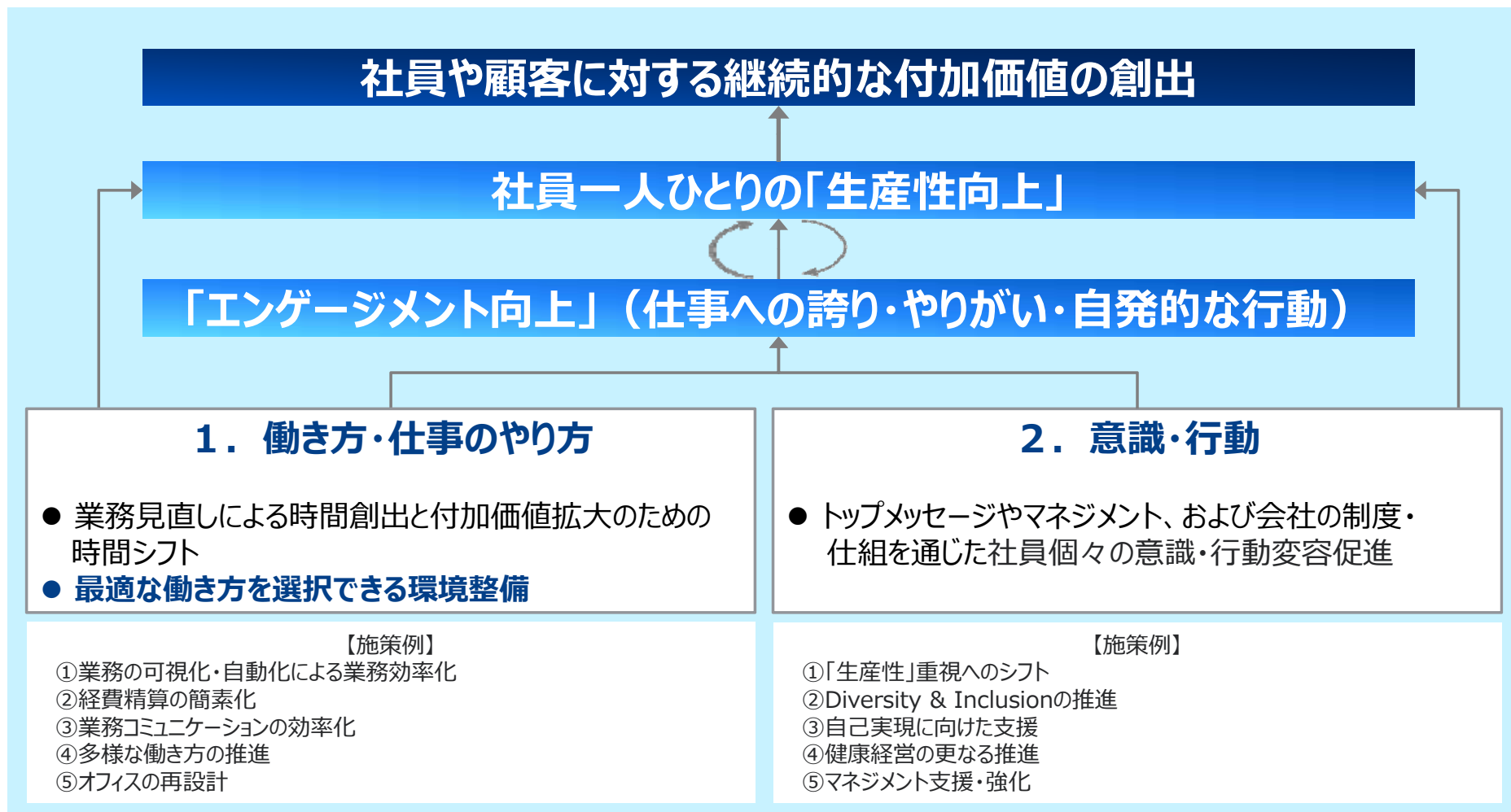


(社内報での特集)



(マンガでの解説)

DS Smart Workの目的



「DS Smart Work」_最適な働き方を選択できる環境整備



最適な働き方を選択できる環境整備

最適な働き方の実現

多様な働き方の推進

業務特性とライフスタイルに応じた 働き方の選択肢拡充

- ・テレワークの拡大・推進
- ・各職種の特性に応じた柔軟な働き方 等

オフィスの再設計

業務のステータスに応じて 就業エリアを選択できるオフィスの再設計

- ・目的に応じたオフィスエリアの再設計
- ・グループアドレスによる固定席削減 等

IT基盤の強化

ストレスフリーでどこでも仕事ができるIT環境

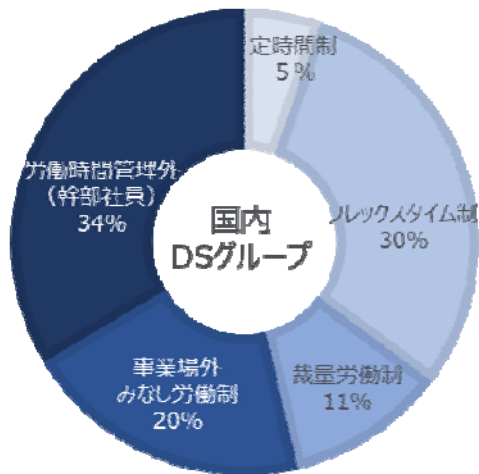
- ・ITインフラ強化、新たなコミュニケーションツール導入
- ・ペーパーレス化の推進 等



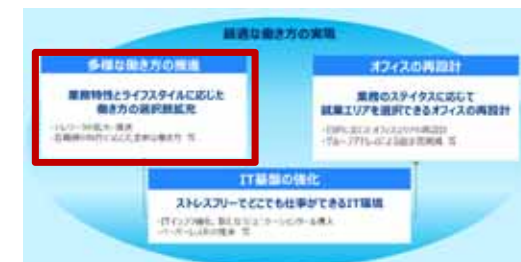
最適な働き方の実現_多様な働き方の推進 (柔軟な勤務体系とテレワーク制度の拡大)



柔軟な勤務体系



労働時間制度		主な適用
①定時間制		生産部門
②フレックスタイム制		コーポレート・スタッフ部門
③裁量労働制	企画業務型	コーポレート・スタッフ部門
	専門業務型	研究開発部門
④事業場外みなし労働制		営業部門
⑤労働時間管理外		幹部社員



テレワーク制度の拡大



テレワークに関する社内アンケート結果（国内第一三共グループ アンケート全社員）

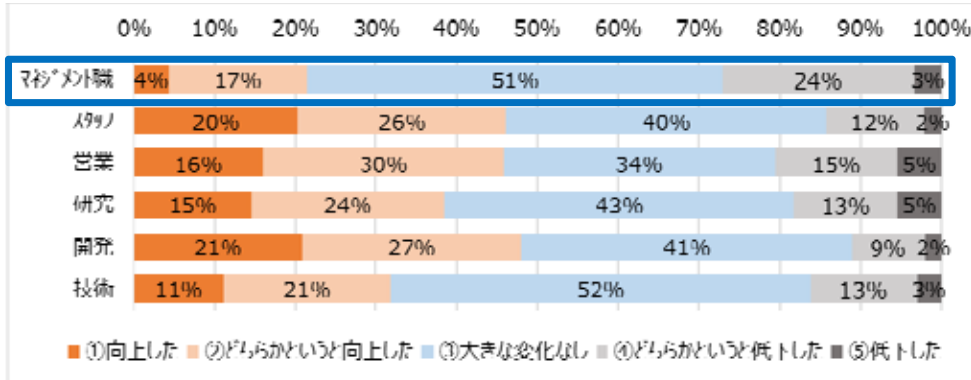
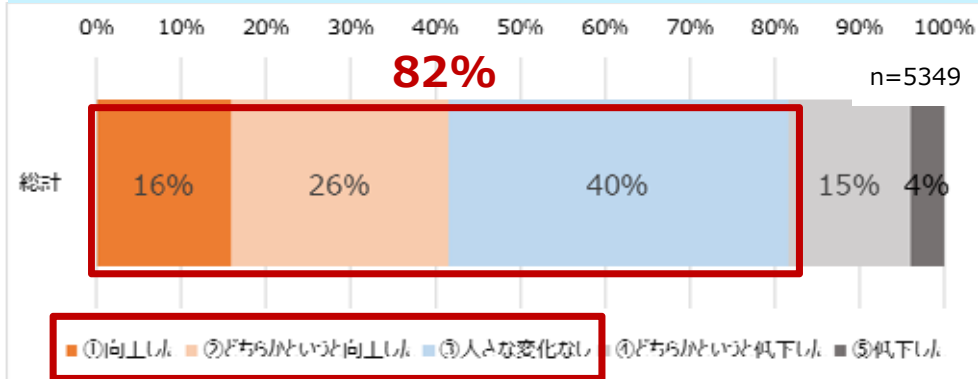


2020

2021

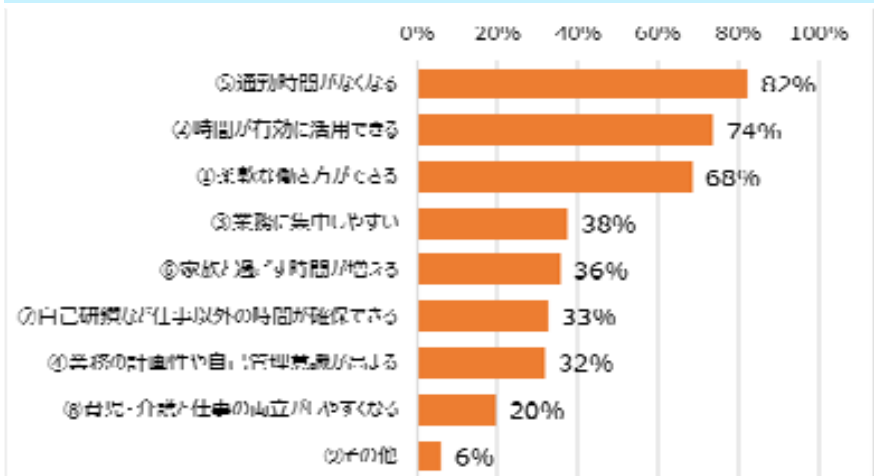
2020年7月 国内第一三共グループ アンケート（全社員）

Q.テレワークにより、業務効率や生産性はどのように変化したか



※第一三共グループでは、管轄組織の責任者として、業績や人材の管理に対して責任を負う本部長・部長・グループ長をマネジメント職と定義している。

Q.テレワークについて、効果・メリットとを感じる点【複数選択可】



【記述コメントピックアップ】

- 1.会議室の制限がなくなり、課題解決のためのコミュ量が増えた
- 2.同僚のスケジュールや業務量を把握しようという意識が高まり、意識的な情報共有や互いの勤務計画の共有が進んだ
- 3.早朝・深夜のグローバル会議による負担が軽減した
- 4.今まで気づけなかった非効率な業務プロセスの改善きっかけになった
- 5.テレワークという選択肢により働き方の幅が広がり、ワークライフバランスが確保しやすくなった

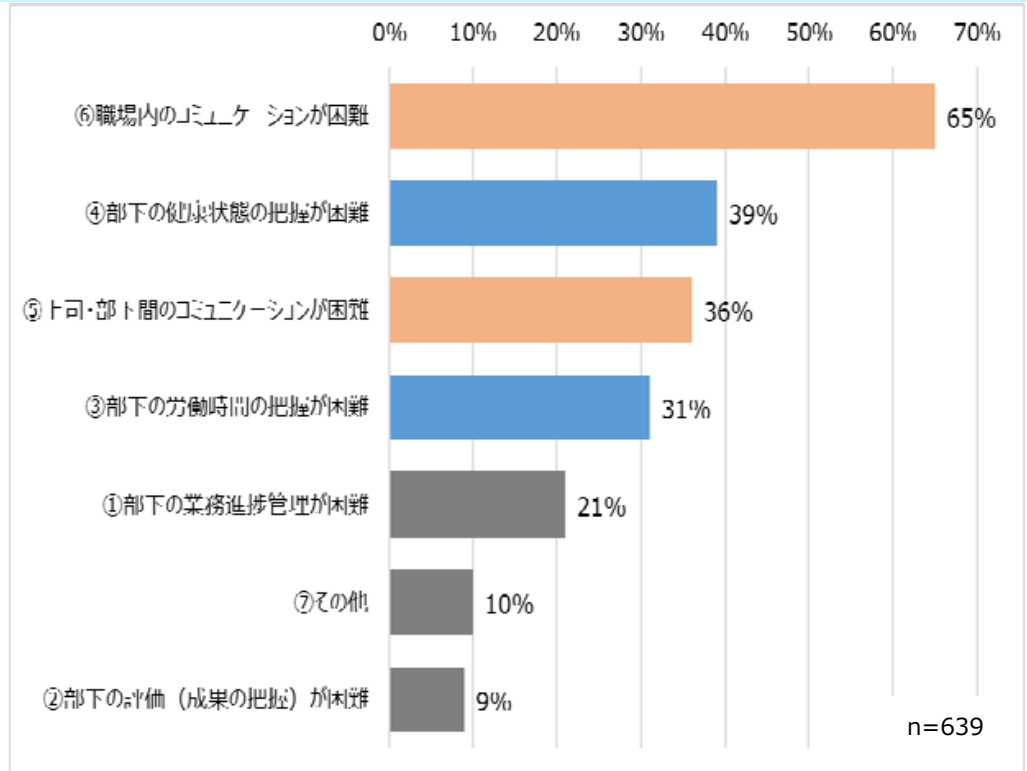
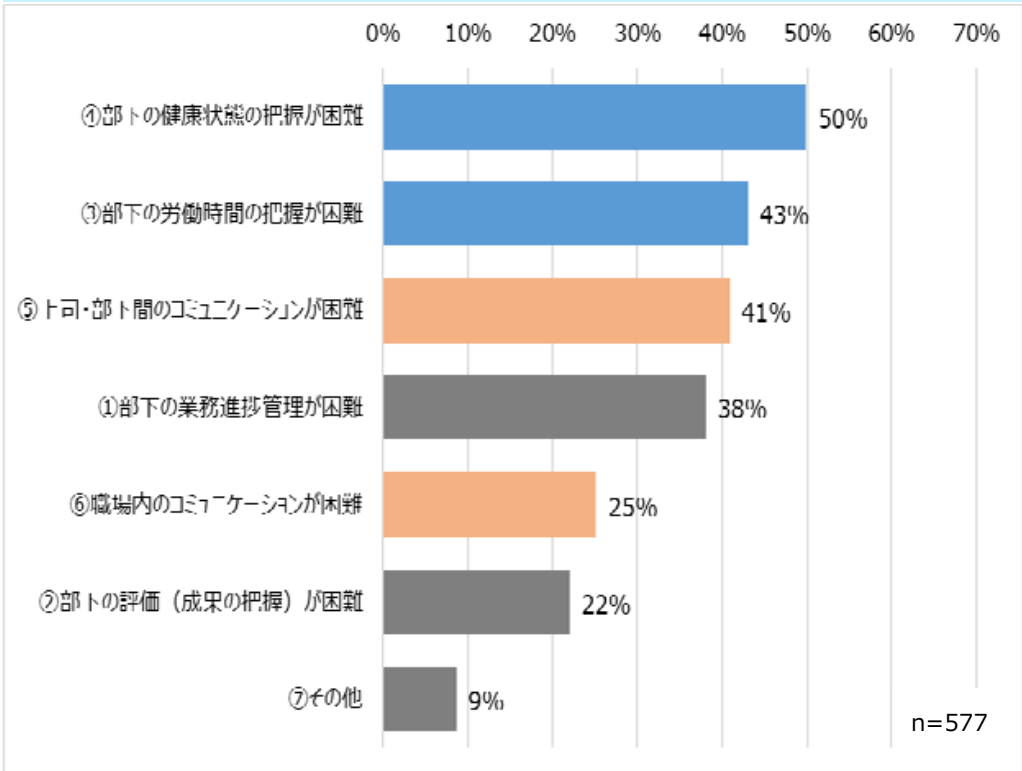
テレワークに関する社内アンケート結果（国内第一三共グループ アンケートマネジメント職）



2020年7月 国内第一三共グループアンケート（マネジメント職）

2021年6月 国内第一三共グループアンケート（マネジメント職）

【マネジメントの観点から支障を感じている点】（複数回答可）



テレワークに関する取り組み（一例）

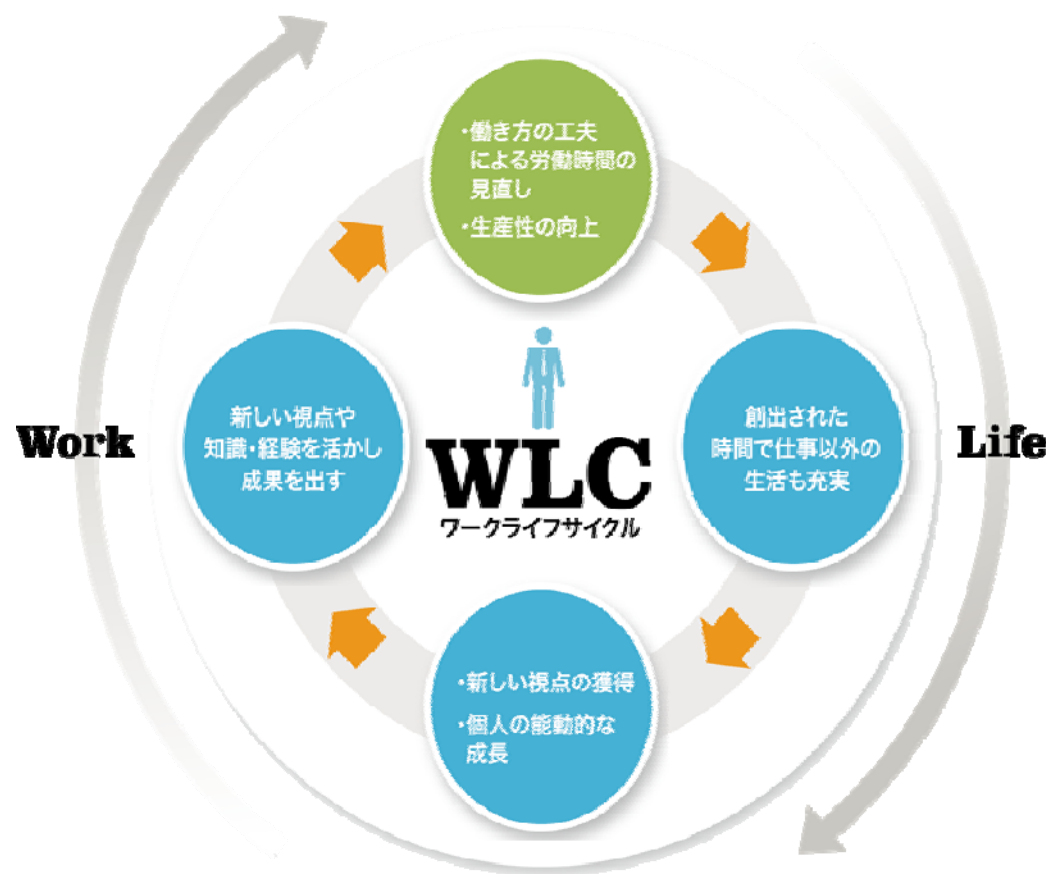


各課題を踏まえたうえで、多角的に施策を実施



第一三共グループにおけるワークライフバランス

第一三共グループでは、「仕事と生活の好循環を生み出す」という考えに基づき、「ワークライフサイクル」というコンセプトを導入しています



健康確保のための長時間労働防止の取り組み（一例）

健康確保のため、適正な労働時間管理や長時間労働の防止対策を徹底

第一三共グループオリジナルの
勤務情報グラフ化ツール開発・導入




11時間勤務間インターバル確保に向けた
勤務入力画面でのアラート表示

PC開始	PC終了	始業	終業	勤務間 インターバル
07:58	18:10	08:00	18:10	10:30

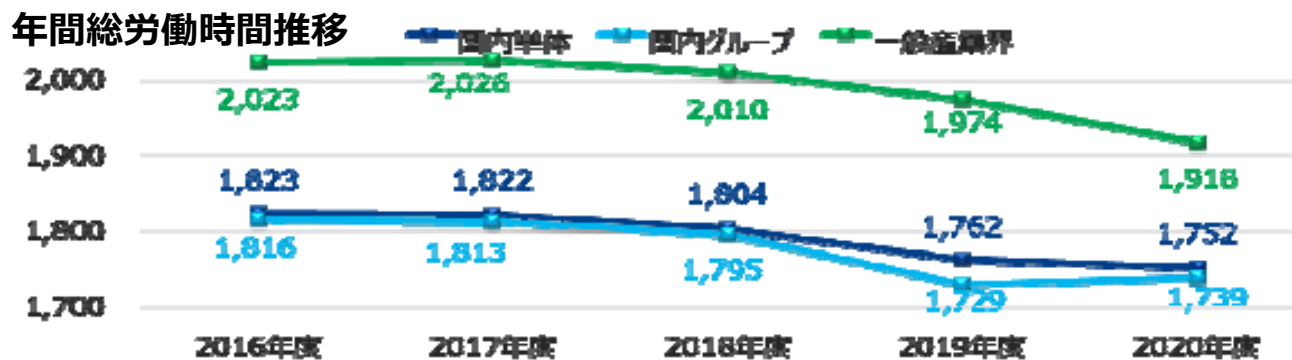
勤務間インターバル(11時間)が確保されていません。次回以降、確保して下さい。

OK キャンセル

時差を伴う業務への配慮

- ・深夜のグローバル会議・学会参加の翌日も11時間勤務間インターバルの確保推奨
困難な場合には、就業時間途中での休憩確保や早めの終業などの代替策を講ずることとしている
※休日・深夜労働は原則禁止でテレワークも同様（上長判断により真に必要な場合のみ可）
- ・グローバルで会議を設定しない時間帯を設ける試み（研究開発部門で試行中）
ほか 

その他 労使協働での
各種労働時間管理施策等を実施



コミュニケーションに関連する取り組み



コミュニケーションは、テレワーク下において重要なテーマであり、促進策を重点的に展開

コミュニケーションをテーマにした
ガイドラインの展開

多岐にわたるコミュニケーションツールの
メリット・デメリットを踏まえ、
共通原則や利用上のポイントを提示

1. はじめに

社内コミュニケーションには多岐にわたるツールが利用されています。各ツールにはそれぞれの特徴と活用方法があります。

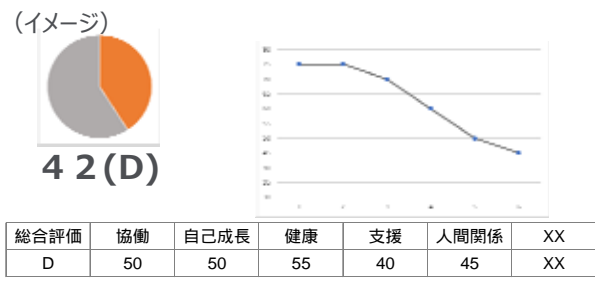
6. コミュニケーション手段の標準的な選択 (推奨)

緊急の案件? → 広く発信する? → 通知手段の選択

電話、メール、チャット、会議、出張、通知、Web会議、テレワーク

新入社員・異動者ケア
・フォロー調査実施・個別フォロー
・外部個別相談窓口の開設

新入社員・異動者対象のフォロー調査
(イメージ)



本社-現場連携
社内での
フォロー強化

外部メンターとの
相談・定期面談

各種ガイドラインの作成・展開
セミナー・eラーニング・対話会等による
意識醸成

マネジメント職向け テレワーク適用ガイド
(M職以外にも全社員に公開)

悩みの多いM職が参考となるような
パターンごとの対応例
などまで記載
例) 報連相の不足時
育児・介護者の申請時

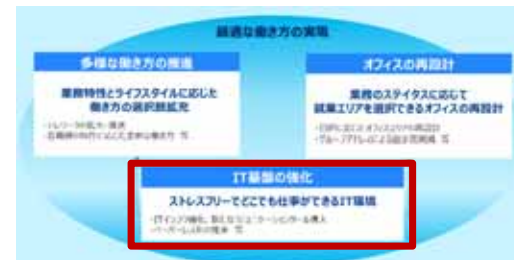


外部講師によるマネジメント職向け
テレワークのマネジメントセミナー

国内グループ会社 ほぼすべてのM職が参加
有益だった・とても有益だった「99%」でアーカイブ配信
セミナー後には、対話会も実施



IT基盤に関してもDX推進ユニット中心に新しいツールを積極的に導入



社外でも業務可能なモバイルツール

モバイルPC(全社員)



2021年

タブレットモードでも利用できる高スペックなPCに置き換え

iPhone (全社員)



2010年(MR)
2016年(全員)

固定電話は原則廃止

iPad(全MR)



2011年

ペーパーレス化推進

経費精算システムの刷新



2021年

紙が必要であった経費精算がスマホで可能に

押印の廃止・削減

2020年



例) 人事関連資料だけで28種類の書類の押印廃止(残るのは対外的に必須なもの)

電子署名システムの導入

新ITツールの導入

名刺管理アプリの導入



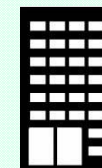
2021年

オンラインでの名刺交換可能に

バーチャルオフィスの試行

2021年

(一部の部所で試行中) オンライン上での「ちょっといいですか」が気軽に



会話文字起こしアプリの導入



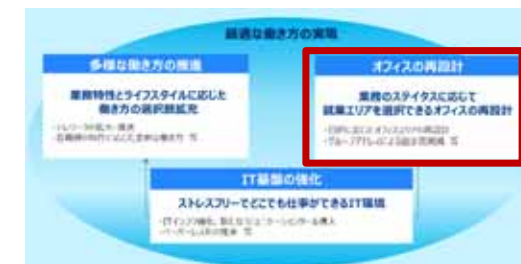
2021年

オンライン上での会話の議事録の自動作成が可能に

最適な働き方の実現_オフィスの再設計①



ABW (Activity Based Working : 働く場所や時間を自由に選択できる働き方) を軸にオフィスの再設計を2018年度から順次展開



本社オフィスの高度活用

ペーパーストックレス保管文書
46%を削減
(キャビネット9,430段→4,340段)
紙文書電子化や保管資料の削減を
行ったうえでレイアウト変更
紙に依存しないワークスタイル実現

すべての会議室に
モニターやスピーカーを設置し
WEB会議環境を整備

各フロアに電話ブース・ソロブース等設置

クリアデスク推進によるセキュリティ向上
フリーアドレス・グループアドレス制の展開

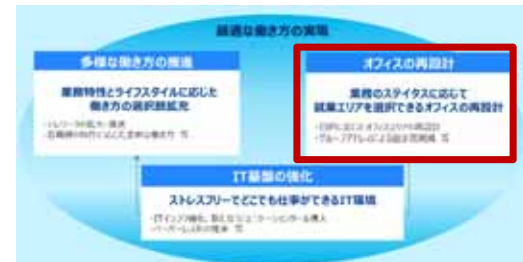
上下昇降機の導入による健康増進



最適な働き方の実現_オフィスの再設計②



ABW (Activity Based Working : 働く場所や時間を自由に選択できる働き方) を軸にオフィスの再設計を2018年度から順次展開



首都圏内でのサテライトオフィスの展開

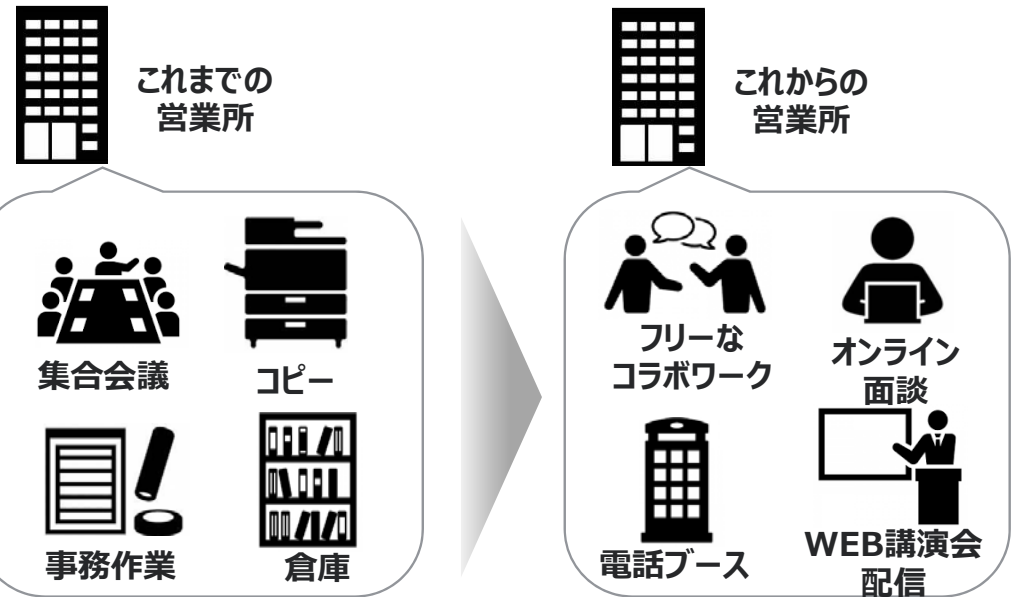
首都圏のグループ内事業場にサテライトオフィスを設置
予約アプリを用いることで当該事業場以外の社員も利用できる



(所属オフィスと同様の通信環境で複合機やシュレッダー等も利用可)

営業所の位置付け見直し

ペーパーレス化等による内勤@Anywhere化を進め、
営業所は顧客とのコンタクトStation機能を充実化



2020年度第一三共グループ 従業員意識調査

95% 回答率

国内第一三共グループのエンゲージメントスコア **76%**

ベンチマークスコア* **59%** を上回る

*IBM World Norms 2015-2018結果データ (N=15万人)

第一三共グループで働くことへの誇りや仕事を通じた達成感、
会社への貢献意欲が高い社員が多いことの表れ

今後も当社グループビジョンの実現とアフターコロナを見据えた持続的成長に向け、
働き方や仕事の見直しによる一人ひとりの「生産性向上」と「エンゲージメント向上」に取り組む



**第一三共グループは世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献してまいります**

